



2020年7月10日

各 位

会 社 名 株式会社ジーンテクノサイエンス
代表者名 代表取締役社長 谷 匡 治
(コード番号：4584 東証マザーズ)
問 合 せ 先 執 行 役 員 栄 靖 雄
経 営 管 理 本 部 長
(TEL. 03-6222-9547)

同仁グループとの連携強化による 新たな歯髄幹細胞事業体制の構築に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会にて、バイオシミラー事業、バイオ新薬事業、新規バイオ事業を3本柱とする医療用医薬品の研究開発に経営資源を集中すること、またそれに伴い、当社完全子会社である株式会社セルテクノロジー（以下、「セルテクノロジー」といいます。）が提供する歯髄細胞バンク®及び培養上清事業については当社の業務提携先である株式会社同仁グループ（以下、「同仁グループ」といいます。）との協力体制の下でさらなる成長を目指すこと（以下、「本方針」といいます。）を決議いたしました。本方針に基づき、歯髄幹細胞再生医療等製品の研究開発にかかるセルテクノロジーの資産・負債及び製薬企業との契約等（第一三共株式会社、エーザイ株式会社、積水化学工業株式会社、株式会社ニコン等との契約を含むがこれらに限らない。）は、セルテクノロジーから当社が事業譲受（以下、「本事業譲受」といいます。）を受け、その後、当社が保有するセルテクノロジーの発行済株式の全てを同仁グループに譲渡いたします（以下、「本株式譲渡」といいます。）。なお、本株式譲渡に伴い、セルテクノロジーの完全子会社であり培養上清事業を運営する株式会社レムケア（以下、「レムケア」といいます。）についても株式譲渡後は同仁グループの傘下となります。

記

【本事業譲受及び本株式譲渡の目的及び概要】

当社は、2018年度より新たな事業ステージを指すGTS3.0「バイオで価値を創造するエンジニアリングカンパニー」を目標に掲げ、これまでの事業活動で得てきたバイオ技術に関するノウハウ及び知見を最大限活用し、従来より手掛けてきた希少疾患、難病に加えて、小児疾患を重点的なターゲットと定め、これらの疾患に悩む患者様、そのご家族や介護者の方を含めた包括的なケアを目指して、新薬のみならず新たな医療法の開発・提供に取り組んでおります。

また、当社は、開発リスクが少ないバイオシミラー事業で安定的な収益を獲得し、財務基盤を強化しながら、バイオ新薬事業及び再生医療分野を軸とした新規バイオ事業で将来の成長性を追及するハイブリッド事業体制を敷いており、新規バイオ事業の事業基盤を早期に確立するため、2019年4月1日付で、セルテクノロジーを株式交換にて完全子会社化しております。

2019年1月17日付「株式交換による株式会社セルテクノロジーの完全子会社化に関するお知らせ」にてお知らせしましたとおり、セルテクノロジーは、再生医療事業における有望な研究ソースである歯髄幹細胞の製造技術を確立し、この歯髄幹細胞を利用した新しい医療技術や再生医療等製品の研究開発及び研究開発支援を主な事業として行っております。セルテクノロジーが採取・保管している歯髄幹細胞は脱落乳歯等から容易に採取可能であるため、骨髄、脂肪組織、臍帯血由来の幹細胞に比べて採取タイミングも多く、かつドナーの身体への負担が少ないなど確保しやすい特徴があります。また、歯髄幹細胞は、他の幹細胞と異なり骨、軟骨及び神経細胞に分化し易い特徴を有しているため、従来の幹細胞では治療が難しかった疾患の治療が期待されます。セルテクノロジーの子会社化以降、

当社はこの歯髄幹細胞の特長及び疾患に対する適性を見極めながら新たな治療法の確立に向け再生医療等製品の研究開発を促進するべく取り組んでまいりました。

昨年度、当社は、持田製薬株式会社との共同事業化契約の締結をはじめとする歯髄幹細胞再生医療等製品にかかる複数の契約の締結、心臓内幹細胞再生医療等製品の開発を進める株式会社日本再生医療の完全子会社化、癸巳化成株式会社とのアフリベルセプトバイオシミラーの共同開発契約の締結等、バイオシミラー事業、バイオ新薬事業、新規バイオ事業を3本柱とする医療用医薬品の研究開発パイプラインを大きく充実させております。また、株式会社ニコンとの業務提携に基づき進めてきた歯髄幹細胞を再生医療等製品として製品化するための基となるマスターセルバンクの構築についても、製造方法の開発を完了しております。今期以降、これらの研究開発パイプラインに積極的に経営資源を投入することで、新たな治療を一日も早く患者様にお届けするとともに、当社の成長を加速させることができるものと考えております。

一方で、2020年2月14日付で業務提携契約を締結した同仁グループは、既に細胞保管事業と培養上清事業を提供するなど再生医療分野において強固な事業基盤を有しており、当社の歯髄幹細胞と同仁グループの事業基盤を組み合わせた新たな事業展開について協議を重ねてまいりました。その結果、セルテクノロジーの歯髄細胞バンク®及び培養上清事業を同仁グループの類似事業と組み合わせ、両社が長年培ってきた事業ノウハウ・ネットワーク等を共有することで、当該事業の成長を加速し、価値の最大化を図ることに合意しております。なお、歯髄細胞バンク®及び培養上清事業を譲渡後も、同仁グループとの業務提携契約に基づき、当社の歯髄幹細胞に関する知見・技術・ノウハウ等を提供することで、当該事業の成長を支援してまいります。

今後、当社は既存パイプラインの研究開発及び更なるパイプラインの獲得に全経営資源を集中するとともに、これらの研究開発活動を通じて獲得する歯髄幹細胞に関する知見・技術・ノウハウ等を活用し、同仁グループによる歯髄細胞バンク®及び培養上清事業を支援することで、それぞれの事業の価値最大化に努め、GTS3.0の早期実現を目指してまいります。

本方針に基づき、歯髄幹細胞再生医療等製品の研究開発にかかるセルテクノロジーの資産・負債及び製薬企業や大学等研究機関との契約等（第一三共株式会社、エーザイ株式会社、積水化学工業株式会社、株式会社ニコン等との契約を含むがこれらに限らない。）は、セルテクノロジーから当社が事業譲受を受け、その後、当社が保有するセルテクノロジーの発行済株式の全てを同仁グループに譲渡いたしますが、本事業譲受及び本株式譲渡に関する詳細は、当社適時開示「連結子会社からの一部事業譲受及び子会社等の異動を伴う株式の譲渡に関するお知らせ」をご確認ください。また、別紙補足説明資料もご参照ください。

なお、同仁グループは、国内外において企業・大学・官公庁とのネットワークを有し、医薬品・医療機器・研究試薬等の販売を行うとともに再生医療技術を用いた細胞培養・保管に係る事業を展開しており、本契約の相手先としては最適であると判断しております。

以上